

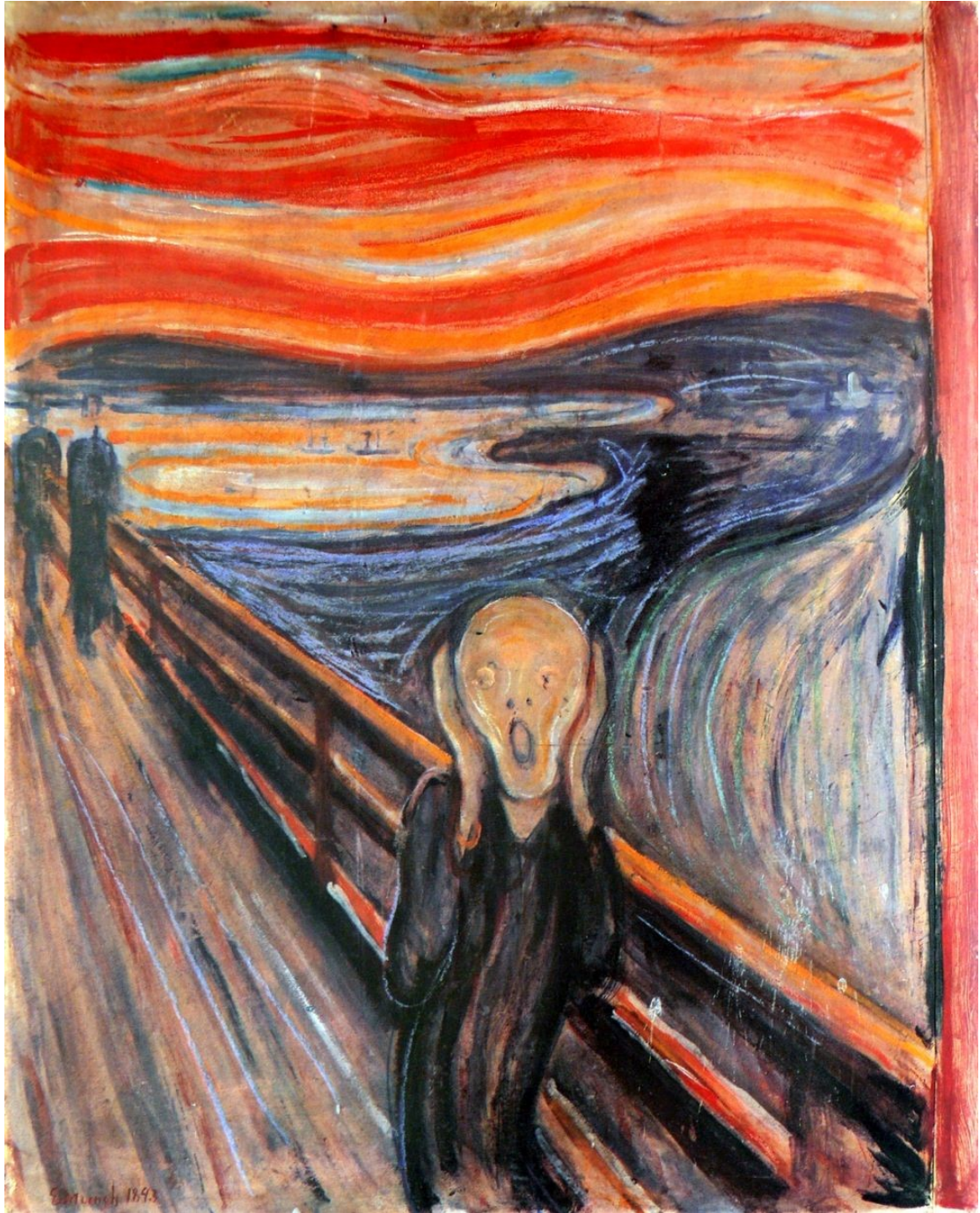
【順天堂（医）10年】

この絵から思うところを800字以内にまとめなさい。



（呉亜沙『樹海』）

【東海（医）】13年



「叫び」エドヴァルド・ムンク

写真：ユニフォトプレス提供

後にムンクは、この作品について自から次ぎのように語っている。

「.....私は二人の友人といっしょに道を歩いていた。ちょうど太陽がまさに沈みかけようとしており、空は血の色に赤く染まっていた。私は、風のそよぎの吹き過ぎるのを感じた。私は死んだように疲れ果てて、じっと立っていた。青いフィヨルドと町の上に、火と血の舌が這い廻った。友人たちは先に行ってしまう、私だけが後に残っていた。その時、何とも知れぬ恐怖に震えながら、私は自然の大きな叫び声を聞いた.....」

絵の主人公であるムンクは、上記のような言葉からどのような叫びを聴いたと思いますか。500字以内で自由に書いてください。

文：高階秀爾著「続名画を見る眼」岩波新書

絵：神林恒道＋新関伸也編著「西洋美術 101 鑑賞ガイドブック」株式会社 三元社